

メゾ・ソプラノ
唐澤まゆ子とペドリッチ弦楽四重奏団による、

Fêtes ~ 雅なる宴 ~ Galantes

フェット・ギャラント

G. ヘンデル：歌劇『セルセ』より
オンブラ・マイ・フ

C.W. グルック：歌劇『パリーデとエレーナ』より
ああ私のやさしい熱情が

マリー・アントワネット：
それは私の恋人

W.A. モーツァルト：歌劇『フィガロの結婚』より
序曲、恋とはどんなものか

G. フォーレ：
マンドリン、月の光、
夢の後に、子守唄 Op.16b

F. ブーランク：
愛の小径

武満徹：
小さな空、雪、素晴らしき悪女

M. フェリヤ：
『恋は魔術師』より 恐怖の踊り、
7つのスペイン民謡

G. ビゼー：歌劇『カルメン』より
序曲、恋は野の鳥、ジプシーの歌



ジャック・ガンダール

長谷川 彩

ジュリアン・ガハ

オレリアン・サバル

2025年

7月18日(金)

開場 18:00
開演 18:30

大阪市中央公会堂
(中集会室)

【全席自由】 前売 5,500円 (当日 6,000円) 学生割引 3,000円

【主催】 AMK 関西

【協賛】 有限責任会社 PATAGADA

【協力】 美音ジャポン



〈お問い合わせ/お申込み〉 AMK 関西

Tel : 06-6857-0381

Email : lesfeteslyriques@gmail.com

【場所】 大阪市中央公会堂

〒530-0005 大阪市北区中之島1丁目1番27号

【アクセス】

- ・地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅下車1号出口から徒歩5分
- ・京阪電車京阪本線「淀屋橋」駅下車から徒歩5分
- ・京阪電車中之島線「なにわ橋」駅から徒歩1分

【後援】 在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ | クラブファンタジー (神戸女学院大学音楽学部同窓会)

Designed by Ziesbank LLC



フェット・ギャラント りやび うたげ
Fêtes Galantes ～雅なる宴～

フランスで活躍するメゾ・ソプラノ 唐澤まゆ子と
 ベドリッシュ弦楽四重奏団による、一夜限りの来日コンサート in 大阪。

2023年に東京サントリーホールを観客を魅了したベドリッシュ弦楽四重奏団と、フランスで舞台と共にしているメゾ・ソプラノ歌手 唐澤まゆ子が遂に大阪にやってきます! 鬼才な第1ヴァイオリン奏者 ジャック・ガンダールが編曲した弦楽四重奏曲を交えながら、ヴェルレーヌのフェット・ギャラントの詩によるフランス歌曲をはじめ、珠玉の名オペラアリアの数々の全てを弦楽四重奏伴奏に完全オリジナル化しお届けします。更に今回の聴きどころは、唐澤まゆ子がパリ国立図書館のおよそ200万冊の資料の中から発掘し、2003年に日本に初めて紹介し世界初録音をした王妃マリー・アントワネット作曲のロマンス「セ・モナミ〜それは私の恋人〜」の弦楽四重奏バージョンによる演奏です。

今回のコンサートタイトル『雅なる宴』(フランス語でフェット・ギャラント)は、年に一度ヴェルサイユ宮殿で行われる盛大な仮装パーティーのイベント名でもあり、宮殿のサロンを彷彿とさせるこの大阪市中央公会堂に相応しい、華やかなプログラムをお届けいたします。

演奏者一同、皆様にお会いできるこの日を心より楽しみにしております!



唐澤まゆ子 Mezzo-soprano (メゾ・ソプラノ)



大阪生まれ。1993年神戸女学院大学声楽科を首席で卒業し同年、パリ国立高等音楽院声楽科に入学。在学中に巨匠指揮者ウィリアム・クリスティに見いだされ日本人歌手として初めて「レ・ザール・フロリゾン」に参加しヨーロッパデビューを果たす。2004年 第33回「ブルーメール賞」、「モストリークラシック」選定による「デビュー of the year」、2010年レ・シム・ド・ヴアルディゼル・アカデミー国際音楽コンクールにて受賞。指揮者ハーディング、テイト、ビド等と共演、ロンドン・バービカンセンター、アン・デア・ウィーン劇場、フィルハーモニー・ド・パリ、ジユネーブ大劇場、アヴィニョン劇場等にて多数のオペラに出演し、優れた舞台さばきで観客を魅了する他、多くの国際音楽祭にも招かれる。日本では東京サントリーホールのリサイタルを皮切りに2003年CDデビュー、「世界劇・黄金の刻」(日本武道館)、京都ファッションカンタータ、NHK番組、テレビ朝日「題名のない音楽家」にも出演し、10年間多彩なアーティスト活動を展開後、2013年より拠点をフランスに移し、ソリストとして活動する傍ら、2015年よりパリ国立オペラ劇場、及びフランス国営放送にも出演している。「豊かな表情と美しいフランス語」と定評を持つ他、2023年より始動した日本でのリサイタルも批評家から絶賛を浴びる。録音では、Universal Music よりフランス歌曲アルバム「Antoinette」(「レコード芸術」誌において準推薦盤)、日本歌曲アルバム「Dear Futur」他「L' Art of Marie-Antoinette」等をリリース。現在フランス、ヴェルサイユ在住。



ベドリッシュ弦楽四重奏団



左から、
 ジャック・ガンダール(第1ヴァイオリン)
 長谷川彰(第2ヴァイオリン)
 オリリアン・サブレ(チェロ)
 ジュリアン・ガバン(ヴィオラ)

2002年結成のベドリッシュ弦楽四重奏団は、伝統的な弦楽四重奏曲の幅広いレパートリーを網羅する一方、ピアノ曲、交響曲、オペラ作品など、さまざまな楽曲を弦楽四重奏用に編曲し演奏することによって、新たな視点からクラシック音楽の魅力を届け、ジャック・ガンダール(第1ヴァイオリン)、長谷川彰(第2ヴァイオリン)、ジュリアン・ガバン(ヴィオラ)、オリリアン・サブレ(チェロ)によって構成される。また、異なる芸術分野とのコラボレーションも積極的に行っている。朗読と音楽を融合させた「言葉と音の物語」、舞踏と組み合わせた「死と乙女」、俳句と日本書道を取り入れた「月夜ゆる」などがある。JM France(子供のための音楽普及活動)を通して独自の音楽教育プログラム「バロックンロール」を提供。2023年にはクレティユ地方音楽院に招かれ室内楽のマスタークラスをするなどし次世代の音楽家の育成にも貢献している。グループは、これまでに、パリのシテ・ドラ・ミュージク、フランス国立図書館、アヴィニョン演劇祭、ブリュッセルのパレ・デ・ボザール等で演奏し、最近ではアルプス(フランス)で行われるフェスティヴァル・アルピに出演。2020年チュービンゲン(ドイツ)のフィールクラング・フェスティヴァルに招聘され、ベートーヴェンとドビュッシーの弦楽四重奏を演奏して高評価を得た。2023年6月には東京サントリーホールにも出演した。2016年発売のCD「セナード・アンテロンビュ」(Bion Records)はフランス国営ラジオ局のライブ出演を含めて広く紹介され、日本では「レコード芸術」誌において優秀録音盤に選出される。2ndアルバム「ミンストレル」(2019年 Bion Records)もフランス国営ラジオで取り上げられ、日本でもリリースし、「音楽現代」誌において推薦盤に選出された。